

協働テーマ

デジタル技術を活用した構造物の施工方法や材料製作手法を開発し、工事の効率化につなげたい！

課題



- 多摩都市モノレールの延伸（上北台～箱根ヶ崎）は、多摩地域のアクセス利便性が図られ、地域全体の活力や魅力の向上等が期待される事業であり、2030年代半ばの開業を目指し、現在、事業化に向けた手続きや調査・設計を進めている。
- 延伸の早期実現に向け、モノレール構造物の工事を効率的に実施していく必要がある。
- デジタル技術を活用して、モノレール構造物の施工方法や仮設材料の製作手法を開発し、工事を効率的に進めていきたい。
※支柱・基礎の工法やコンクリート型枠等の製作を想定

背景

- 延伸区間は、約7kmと延長が長く、限られた期間で延伸事業を着実に完了するには、効率的な工事の実施が不可欠である。
- モノレールは、高架構造であり、多くの基礎・支柱の構築後、現場に運搬してきた長尺の軌道桁を、支柱間に架設する工事計画である。
- 延伸区間を複数の区間に分割して、同時並行で工事を進めていく予定である。
- 工事は、多摩地域の中でもとりわけ交通量の多い新青梅街道を交通規制しながらの作業となり、現道交通への影響を極力低減させる必要がある。
- 建設業の「2024年問題」を踏まえ、生産性の向上や省力化につながる最適な工事手法や新たな工法の導入を検討し、効率化を図っていく必要がある。

現場からのコメント



- 現在、調査・設計を実施中であり、標準的な構造物のモデルを基に検討することになる。

現場情報

※現場への直接のご連絡は行わないでください

建設局
(道路建設部計画課)

多摩都市モノレール延伸（上北台～箱根ヶ崎）の事業化及び調整に取り組んでいる